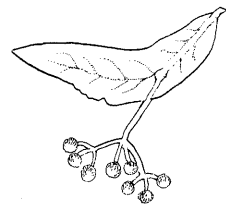


# 外遊びの楽しみ

— 幼いきょうだいと暮らす —

藤津 麻里



私たちの住んでいる会津若松では、冬は寒く、雪

が多く、日も短くて、小さな子どもが外で遊ぶのは向きません。五月に入って、暖かく、日も長くなってくると、アパートの駐車場や砂場で毎日おそくまで遊ぶ子どもたちの姿が見られるようになりました。二棟しかないアパートで、合計二十四世帯だけなのに、こんなに子どもがたくさんいたのかと

びつくりするくらい……。

自転車で走り回る小学生の男の子たち。女の子たちはボール遊びをしたり、ブランコに乗ったりしています。それでも、高学年になると室内での遊びが中心になってしまうのか、大きい子はいつの間にか姿を消してしまい、ずっと外で遊び続けているのはたいてい幼児と一年生だけです。

小さな子どもたちは三輪車やおもちゃの車に乗ったり、砂場で熱心に遊びます。シャベルで砂をすくってバケツやお椀に詰め、砂の上にそっとひっくりかえしてケーキ作り。泥団子を丸める子。大きな砂山を作る子。二歳のTくんは靴をぬいで、はだしのしし歩き回っています。落ちていたシャベルを三本拾い、「あなたの使っていたシャベルはどれですか？」と、昔話の「三本の斧」の仙女みたいにユーモアたっぷりに聞いて回っている一年生のKくんは、ばらばらに遊んでいる子どもたちをゆるやかにつなぐメディーエーターといったところ。私もこんな楽しい集団にもっと早く参加していたかったな、と思いました。昨年は、生まれたての次男の世話で手一杯で、長男の外遊びの相手はほとんど夫に任せていたものだから……。

三歳になった長男は、「お外で遊ぶ！ 三輪車に乗る！」と宣言しては、この間まで自分ではけな

かった靴をサツとはいて、ドアの鍵を開けて飛び出していつてしまいます。「待っててー」と声をかけても、「二人で行ってるから！」。どうしても出てほしくない時は、ドアにチェーンをかけておかなくてはなりません。この春に、それまで通っていた小さなベビーホームから幼稚園に移り、大勢の友達と園庭で遊ぶようになったことも影響しているのか、以前よりも活動的になったようです。でも、まだ車に対する注意力はもう一つなので、一人で外に出すのは不安です。道路に出してしまうのが危ないのはもちろんですが、子どもたちが遊ぶスペースの半分はアパートの駐車場になっていて、住人の車の出入りがあるからです。

ある日、やはり「外で遊ぶ！」という長男に、夕食の用意をすませたかった私は「外へ出る時のお約束。道に出ないこと。車が入ってきたら、逃げることで。できる？」と言いきかせることにしました。

「うん」とうなずいて出ていった長男が三輪車に乗ったり、砂場で遊んでいるのを時々窓から確かめながら夕食の仕度をし、次男と二人で追いかけて外へ出ます。たいてい、外では他にも何人か子どもが遊んでいて、つきそいのお母さん方も二、三人いることが多いので、全く大人の目がないわけではないのですが、勝手に頼りにしてしまうのも考えものですね。

長男の一番の遊び相手は、同い年のM子ちゃん。砂遊びが大好きで、毎日お母さんと一緒に砂場で砂をすくって遊んでいます。長男も仲間入りして砂場で遊んだり、三輪車で競争したり。最近まで三輪車のペダルを踏まず、お母さんに押して動かしてもらっていたM子ちゃんなのに、今では自分でどんどんペダルをこぎ、小さな坂もスーイと降りていってしまう上達ぶり。長男もぐいぐいペダルを踏んで追いかけます。母親としては、よそのお子さんの成長

を見るのも外遊びの楽しみの一つです。このごろは、逆にうちの長男の方が、砂利に車輪をとられて、M子ちゃんのお母さんに「押して！」と三輪車を押していただいたりしています。

少し年上の女の子たちも、長男をかまって遊んでくれます。五、六歳の男の子たちは、かつこいい自転車や車に乗っていたり、スコップで大きな穴を砂場に掘ったり、虫をつかまえたりしていて、長男にとって刺激的な存在のようです。先日も、砂場の砂のなかに珍しい虫を見つけたWくんが「何だこれ、もぐら虫かなー?」「モグラムシー?」と長男ものぞきこみます。砂をかきわけると小さな手があり、足はバツタに似ていて、蜂のような羽をもつ虫でした。虫を容器に入れて砂をかけてみる男の子たち。気がつくのと、長男もその虫を指先でむんずとつまんでいるではありませんか。バタバタ暴れる虫を見かねた私が「かわいそうだから離してやりな」と声を

かけてみましたが、なかなか離しません。後で夫に話したら「オケラじゃないか？」と言っています。こんど、昆虫図鑑を買って調べてみようかと思っています。

次男も一歳を迎え、屋外で靴をはいて歩き始めました。「もう少し、家の中で歩く練習をさせてから外に行かせよう」なんて、私はのんびり構えていたのですが、夫が靴をはかせて散歩に連れ出したらとても喜んだそうで、それをきっかけに毎日のように外へ連れていき、歩く時間を作るようになりました。

本人は外に出るのがとても好きらしく、玄関で自分の靴を指さし、「外に行きたいの?」と片方はかせると、もう片方の靴も指さして、はかせてほしいと要求します。外で立たせるとうれしそうにニッコリ。トコトコ歩き始めます。

夫と初めて散歩した日、次男は石や砂にそうっと手を伸ばしては父の表情を確かめ、「バッチイよ、

ダメ」といわれると手をひっこめていたそうです。

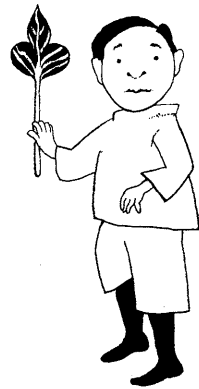
その後、外歩きを重ねる中で少しずつ大胆になり、いろいろな小さな発見や冒険をしています。地面に映る自分の影が面白くて、そちらの方向に歩いてみる。石や小さな木ぎれを拾いあげて眺め、口に入れてなめてみる。マンホールに開いている小さな穴に指をつっこむ。砂をつかみ、私に「ダメ、ポイしなさい」と言われてバツと投げ、また砂をつかんで口に入れてみる（あわててハンカチで口をぬぐってやります）。傾斜のあるところを、私と手をつないで登ったり下りたり。ちょっとした段差も踏み越えてしまします。草がかたまつて生えている株がとても気になるようで、手でまず葉をさわってみて、そろそろ右足を出し、株を踏んづけて感触を確かめています。

この子は一歳になるのを境に、急に言葉もはつきり出始め、「バイバイ」と手を握ったり、食後に皿

を片づけるなど、その場に合った行動をみせるようになってきました。兄と「ギャーツ」と大声を出し合ってふざけあう様子や、夜、なかなか寝つけずふとんの上であちこちへゴロゴロ転がっているのを見ていても、もう赤ちゃんではなく、一人前の「子ども」らしくなってきたのを感じます。顔や体つきはまだばちゃばちゃと柔らかく、赤ちゃんぽさが残っているのですけれど。トコトコ歩きながら、もっと広い世界に出ていく時期なのでしょう。

少し残念なのは、次男のトコトコ歩きにつきあっている、長男が遊んでいるのをよく見られないことです。長男のいる方をチラチラ見ながら、何をしているのかな、お友達と仲良く遊べているのかな、と気にはなっているのですが……。大きな泣き声があるかないところを見ると、今のところは大丈夫かな、と思ったりしています。

それでも、こんな遊び方も、それぞれの遊びに集



中でできているという点では良いのかもしれません。家の中で二人を遊ばせていると、お互いが使っているおもちゃが楽しそうに見えてとりあいになったり、長男が組み立てたレールやブロックを次男がさわって壊したただの、長男が次男の上のしかかっている危ないだの、としよっちゅう衝突が起こり、私はその仲裁に追われてしまいます。外遊びの時は、全く別々のことをしている分、衝突がなく、長男も同じ年頃のお友達とダイナミックに遊べます。兄弟で本格的に同じ遊びができるのはもう少し先になりそうです。今年はこのままに、それぞれが自分のペースでやりたいことをしているのを、眺めて楽しむこと

にしましょう。

アパートの庭に、木製の丸いベンチがあります。

直径三、四メートル、幅五十センチメートルくらいのドーナツ型です。子どもなら十五人くらいは座れそうなのですが、子どもたちは座るよりも、ベンチの上をぐるぐる歩いて回るのが大好き。大勢で列になって歩くのを見ていたら、年齢によつてはつきりと特徴があるのに気づきました。まだできないので、母親の私に抱えられて見ている一歳の次男。二歳のTくんやR子ちゃんは、歩いて回ることはできませんけれど、他のものに気をとられてよそ見をしているうちに、足を踏み外してベンチから落ちこちてしまいます。みんなが歩いているのと反対方向に歩くとうとすることもあるため、お母さん方は、ベンチから落ちて大泣きしているのを抱きあげたり、「こつち回りだよー、反対回りはダメよー」と交通整理し

たりと大忙し。三歳の長男やM子ちゃんは、前の子の様子を見て、前が止まれば自分もしっかり止まって待っています。そんな三歳児の後ろで、一年生のK子ちゃんはじれったそうに「早く行ってよお」とせかしたり、ベンチから飛びおりて列の前方へ移動したりしています。同じく一年生のKくんが、長男に「R子ちゃんを追いこして前に行くんだよ。ベンチから一回降りて」と教えてくれましたが、長男はまだ分からないようでした。

いろいろな年齢の子どもたちが時間と空間を共有して遊ぶこと、その中に楽しさのタネが沢山隠れているような気がします。ベンチの上でぐるぐる回ってはしゃぐ子どもたちを見ながら、ほんとうにそれぞれマイペースで面白いなあ、と、ほのほのと愉快な気持ちになったひとときでした。

(会津若松市在住)